

社会で求められている力、 そしてこれから高校で 求められる指導

グローバル化やデジタル化は、社会をどう変えようとしているのか。高校ではどのような人材の育成が求められているのか。東京都立新宿高校の鎌田邦広先生が、学級や部活動で指導した2人の卒業生と語り合った。



東京都立新宿高校
鎌田邦広

かまだ・くにひろ 教職歴25年。同校に赴任して13年目。3学年担任。数学科。ラグビー部監督。



東京都立新宿高校卒業生
加曾利光男

かそり・みつお 早稲田大学商学部卒。新宿高校在学時はラグビー部に所属。鎌田先生とはラグビー部の顧問と部員の関係。現在、大手金融機関に勤務し、国内法人を担当。社会人歴2年目。



東京都立新宿高校卒業生
能美容彦

のうみ・よしひこ 早稲田大学商学部卒。新宿高校在学時は2、3年の担任が鎌田先生だった。部活動は軟式野球部に所属。2012年6月まで大手食品会社に勤務。現在は文部科学省所管のスポーツ関連の法人に勤務。社会人歴4年目。

東京都立新宿高校

生徒数は1学年約320人。2007年に東京都教育委員会により「進学指導特別推進校」に指定。12年度入試では、国公立大は千葉大、東京学芸大、東京工業大、首都大学東京などに75人が合格。私立大は慶應義塾大、上智大、早稲田大などに935人が合格（現浪計）。

社会で必要な力であれば 高校から学んでおくべき

鎌田 僕たち教師は、企業で働く君たちに比べると、グローバル化やデジタル化といった社会の変化を少し実感しづらいのかもしれない。例えば、Facebook（*1）がどんなものなのかを知らなくても、授業には直接差し障りはありません。でもそういうした半面、これからの教師は生徒に対して、グローバル化やデジタル化した社会ではこういう力が必要だ

と具体的に教えられなければいけない、とも思っています。だから、久しぶりに会った君たちから、経験を踏まえた意見が聞きたいです。

加曾利 今おっしゃったFacebookですが、私の職場は上司もみんなやっています。そこでは、休日中の様子などが語られることもあるので、「お子さんと山に出掛けたんですね」といった感じで、上司や先輩との会話のきっかけが得られます。Facebookが相手のことを理解する助けとなり、コミュニケーションが豊

かになっっていることは確かです。

能美 私の場合、Facebookは高校や大学の友だちとの交流に使う程度です。でも、大学時代にゼミの教授から強く言われたのは、Facebookのようなサーバーレスも、今急速に普及しているタブレット型パソコンのような機器も、一度は触れてみるようにということでした。新しいものやサーバーがほとんど出てくるけれど、とりあえず接してみたら活用するかどうかを決めなさいと。社会人になつて、学生の頃よりは少し経済的

にも余裕が出来たので、デジタル化の波についていくように心掛けています。でも、仕事で使うデジタルと例えばExcel®（*2）ですね。学生時代はそれほど身近なものではなかったのですが、今は業務管理などで毎日使います。

加曾利 大学時代はゼミの発表などでPowerPoint®（*3）をよく使いましたが、社会人になってからはExcel®です。ただ、大学時代にPowerPoint®を使った発表を多く経験したことで、お客様とコミュニ

*1 友人や同僚、同級生、近所の人たちなどと交流を深めることができるSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の1つ。

*2 Microsoft® が販売している表計算ソフト。 *3 Microsoft® が販売しているプレゼンテーションソフト。

ケーションをとる時も論理的に分かりやすく伝える意識が根付いている気がします。

能美 ツールとしてパソコンを使いこなす力は、大学でかなり養われました。ゼミの発表では、資料として100枚スライドをつくることもありましたが、作成スキルや情報収集力はおのずと高まりました。でも



仕事では、資料は出来るだけ少ない方がいいんです。だから、要点を端的に伝える力は仕事を通して身に付いたと思います。

鎌田 デジタル化する社会では、道具を使いこなすためのスキルと、そこで得たものを相手に伝えるなどの運用能力が必要だということなんです。君たちは、そうした力を高校でも養うべきだと思いますか。

能美 私はやっておくべきだと思います。大学の全ての学部・学科で、そうしたことを学ぶとは限らないわけですから。社会で必要な力なのであれば、高校で最低限は学んだ方がいいと思います。

加曾利 大学生になって、あるいは社会人になってから学べば何とかなるという考えは、間違っていると思うのです。私自身、論理的に考え、伝える力をもっと早くから高めておけばよかったと思うことがしばしばあります。仕事をこなせているから力は十分にある、ということではないと自覚しています。高校でも、コンピュータを活用して、論理的に



**生徒同士、生徒と教師が
お互いに刺激を与え合うことで、
主体性が身に付くのです**

伝え合うような経験がもう少し出来ると思います。

**英語の力、受容する力は
今後間違いなく必要**

鎌田 グローバル化について、社会人として君たちが日々感じていることを教えてください。

加曾利 英語の力が今後ますます必要になるのは間違いないと思います。若手社員は海外志向が強く、英語の検定試験が話題に上がることもよくあります。試験で高得点を取れば英語が話せるようになるわけではないことは分かっていますが、励みになりますし、会社も英語力の1つの評価軸として見えています。

能美 私の仕事では、これまで英語を使う機会はありませんでした。むしろ、大阪に赴任したら関西弁を話せる方が役に立つと思います。でも、

これからの社会人にはやはり英語力は必要だと思います。英語が出来た方が仕事のチャンスも広がりますから。ただし、あくまで一人前に仕事が出来た上での英語力です。

加曾利 中学校から英語を学んできましたが、英語の必要性をもっと明確に感じられていたらよかったです。英語が苦手でした。でも、大学時代にシンガポールを旅行した時、コーヒーションで勉強に集中する大学生を見て、「これでは日本の若者は負けてしまう」と危機感を覚えると同時に、彼らと話をしてみたいと思ったのです。外の世界に出ることで英語の必要性はより実感できるはず。そういう機会は高校時代にもあった方がいいと思います。

能美 グローバル化の中では英語の力も大切ですが、それ以上に大切だ

と感じるのは、異なる価値観を受け入れる力です。仕事をしていると、同じ日本人でもこれほど考え方が違うのかと驚くことはしばしばです。相手が外国人であれば、きつとなおさらだと思えます。そうした異なる価値観に出合う経験も、高校時代には必要だと思えます。新宿高校の生徒が地方の高校生と交流したら、いろいろな価値観の発見があるはずですよ。

加曾利 私も、自分と違う価値観を受け入れる力は大切だと思います。だから、高校生の時には、1つの目標に向かって意見をぶつけ合いながら、お互いを高め合えるような経験をもっとしてもらいたいですね。

鎌田 多様な価値観の存在を受け入れられたり、論理的に伝え合ったりする力の育成は、高校でもより重要になるだろうと僕も思います。新宿高校でも、君たちがいた頃にはなかった取り組みが始まっています。例えば、



日々の高校生活の中で 変化する社会への興味を 生徒の中に育ててほしいです

入学直後の1年生を対象とした宿泊研修では、初対面の者同士がグループになってあるテーマについて話し合い、それぞれの意見を全員の前で発表しています。僕の数学の授業でも、生徒同士で話し合う時間を意識的に作っています。そうしたことの積み重ねが大切だと思っています。

高校生活を楽しむ経験が 社会で役立つ力を養う

鎌田 グローバル化やデジタル化が進展する社会において、他に君たちが仕事をしていく上で大切だと思っている力がありますか。

能美 状況に応じて、自立した行動をする力だと思います。このままだと売り上げが目標に達しないと予想される時などに、手をこまねいていけるのではなく、失敗を恐れずに新しい手が打てる力です。
加曾利 私が大切だと思うのは、目標から逆算して行動計画を立て、考



える力です。仕事では必ず目標が決まっていますから、この時期までにはこれをクリアするというように、ゴールから物事を考えると常々職場でも言われています。

鎌田 高校時代、僕ら教師は君たちに進路の話をよくしましたよね。入試日から逆算して、今やるべきことを考えようとか、先輩たちの体験談を参考に自分なりに勉強法を考えてみようとか。僕らのそうした言葉は、

今君たちが話した社会で必要とされる力に通じていると思いませんか。
能美 確かにそうですね。でも、高校生の時は正直そんなふうに見えることは出来ませんでした。大学受験が終わって、自分の高校生活を振り返った時に初めて、そうした力が必要だったと分かった気がします。

鎌田 仕事の場合、自分の成功や失敗を次に生かすチャンスはたくさんあると思います。でも、高校生活は1回しかないのに、高校生本人に後戻りできないという自覚がない。目標から逆算して、今の自分を主体的に修正していく必要性を生徒にどれだけ自覚させられるのが、大きな課題だと思っています。

加曾利 勉強を「やらされている」と感じている間は、目標から逆算する主体性は生まれてこないですよ。私は、高校時代は成績が下位だったのですが、友だちと一緒に勉強して成績を競い合うようになると、勉強が楽しくなってきたんです。そして、実際に少しずつ成績が上がりが始めるともっと楽しくなりました。こうなると、目標に向かって自分で計画を立てられるようになるんです。

鎌田 仕事も勉強も楽しくなければ主体的に取り組めないですよ。つまり、自分をモチベートしながら実際に頑張る中で、社会で役立つ力の結果的に身に付くでしょう。教師として「目標から逆算しなさい」と

正論だけをぶつけても、それで伝わるものは実は少なく、授業や部活動、学校行事などを一緒に頑張る、楽しむ中で感じてもらうしかないと思います。僕も新宿高校の卒業生ですが、先生の「ひと言」で自分が変わったという経験は実はありません。いろんな考えや個性を持った先生や同級生と日々過ごす中で、もっと楽しみたいとか負けたくないとか、お互いに影響し合っていた気がします。

加曾利 高校時代、先生から一方的に言われるだけでは、どんな言葉でもたぶん心に響かなかったと思います。先生と僕らは縦の関係ですが、学校では友だち同士の横の関係で励まし合っていましたし、それは明らかにモチベーションになっていました。そうしたしっかりした横の関係

の中で努力している時には、先生の言葉もすっと心に入っていくのだと思います。

鎌田 仲間同士が励まし合って頑張るうちに、視野が広がり、僕ら教師の言葉も受け入れられるようになるのでしょね。考えてみれば、生徒がクラスの中でお互い関心を持たずに、黙々と勉強するだけの場所なら、「高校」と名乗る必要はありません。

変化の中で自ら学んでいく 素地を高校時代に養う

能美 社会人になって最初のうちは、毎日失敗の連続です。会社では先輩たちが味方になってくれますが、一歩外に出たら「もっとしっかりやれよ!」と叱られる。グローバル化やデジタル化が進み、社会が複雑になれば、自分の価値観が通用しなかったり、叱られたりすることは

更に増えるのだらうと思います。

加曾利 失敗して叱られて、そこから立ち上がる経験が必要だと思います。そのためにも高校の先生には、生徒の成長を楽しみにしながら、愛情を持って叱り続けてほしいです。社会人になったら、常に成果を求められるわけで、仕事での失敗は許されません。失敗して立ち直るプロセスを評価してあげられる余裕があるのは、高校の良さだと私は思っています。

鎌田 僕らは、保護者よりも長い時間を生徒と一緒に過ごしている。だから生徒を叱る資格があると思っています。仕事だから叱るのではないし、仕事だと思ったら叱ることなんて出来なくなります。

能美 全ての社会人にとって一番良くないことは、惰性で仕事をするのだと思います。社会は変わって



生徒の成長を楽しみに
愛情を持って
生徒を叱り続けてください

いるのだから、同じことを繰り返すだけではいけないはず。変化する社会でどんな力が必要か、先生によって考えは異なるかもしれないけれど、変化に対する興味を生徒の中に育ててほしいです。クラスで意見をまとめる時にパソコンを使ってみるなど、ちょっととしたことが、変化に対する抵抗感をなくし、興味を育てるのではないのでしょうか。得意にならなくても、嫌いにならないければそれでいいと思います。

鎌田 グローバル化もデジタル化も、高校が積極的に行うべきは、社会の変化に対応するための素地をつくることだと思います。これからの社会で論理的思考力やコミュニケーション能力、異文化を受容する力が一層問われるのであれば、自分の中のそうした力を見極め、もっと伸ばすことが必要だという意欲を高めたい。そうした「欲」を持たせることが、大学や社会で新しい知識を吸収する素地になると思います。今日は久しぶりに話が出来て楽しかったよ。ありがとう。